

はじめに

私が初めて SRP を行った40年前は、SRP に関する実習セミナーはなく、教本には具体的なノウハウが記述されておらず、何が正しいのかもわからない状態で臨床に臨み、いたずらに歯周組織を傷つけているように思えてなりません。また、歯周組織が治癒するイメージがもてず、SRP にいつもストレスを感じていました。

以来、さまざまなことを試し、考え、根面やエッジと向き合いながら、なんとか治癒が得られるようになるのに10年かかりました。10年という年月は、私にとっても患者さんにとっても、とても長い時間でした。

私たちが臨床で行っている歯周基本治療は、まさに感染除去による生体の治癒応答を導くものであり、内科的要素と外科的要素を併せもつ非常に高度な医療であると思います。

わが国に保険制度があるおかげで、深い歯周ポケットや重度の歯周病も、SRP や SPT で長期的に管理できます。また、歯科衛生士はみなさんととても真面目で、器用な指先は SRP だけでも炎症を改善させられるようになりました。

そして40年経ったいま、ステージⅢの重度歯周病も歯周外科治療を行わずとも長期的に歯周組織の安定を得られるようになり、多くの症例がそれを立証しています。

患者さんの健康に寄与できる歯科衛生士は歯科医療にとって有意義であり、何人にも必要とされる存在であると自負しています。加えて、東京歯科大学 名誉教授の下野正基先生との出会いにより、SRP によって歯周組織学的な治癒を得られると確信したときに、さらにこの仕事のすばらしさとやりがいを感じたのです。

緻密な SRP の技術による感染除去は、生体の治癒におおいに貢献できることを証明したいと、本書を企画しました。

本書が歯周病で悩む患者さんの健康を取り戻すために日々臨床に励む皆様の一助になれば幸いです。

2024年 7月
長谷ますみ